Title	アパート居住児童のパーソナリティ：親子関係の心理学的研究の一環として
Author	中西, 昇 / 谷, 嘉代子 / 北井, 邦子 / 吉田, 洋子
Citation	大阪市立大学家政学部紀要. 8 巻, p.83-90.
Issue Date	1961-02
ISSN	0473-4742
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学家政学部
Description	

Placed on: 大阪市立大学学術機関リポジトリ

Placed on: Osaka City University Repository

アパート居住児童のパーソナリティ

—— 親子関係の心理学的研究の一環として ——

中西　昇・谷　嘉代子・北井邦子・吉田洋子

THE PERSONALITY OF CHILDREN IN APARTMENT HOUSES

— THROUGH THE PSYCHOLOGICAL STUDY OF PARENT-CHILD-RELATION —

By NOBORU NAKANISHI, KAYOKO TANI, KUNIKO KITAI AND YOKO YOSHIDA

序　　論

近年の集団住宅化への傾向は，現代社会経済の事情から生じたものではあろうが，児童心理学からすれば，住宅は単に住生活問題に止まらず，児童の成育環境，人格形成の場として考えられる。したがって，これら新しい形の集団住宅は，何らかの新しい問題を子供の成長に与えることが想像されるのである。われわれは，こうした住宅様式の変化が，子どもに，どのような影響を与えるかに関して，当研究室の親子関係の研究[1]の観点から母親と子どもの親子関係について調べようとした。

目　　的

アパートメントという住居形式が，どのように子供の精神状態に影響するかについて，学業成績，子供間の人気，性格などから，アパート居住児童と非居住児童を比較調査する。しかるに，アパートメントの居住は，居住者の経済的地位によっても限定されるために，こうした経済的情況を考慮することにする。然して，それらの子供の特性の基礎としては，それぞれ母親の子どもに対する態度が考えられるために，それぞれの親子関係のあり方と関連させて考察せんとする。

手続及び方法

I 調査対象

アパート居住者と非居住者との心性を比較するための対象選択においては，居住様式が心性に，相当の固定的影響を与えるものという前提がなされるわけであるため，①該当住居居住年月が長い

ことを，まず留意する必要がある。②また地域の影響を除くために同一地域の居住者を選ばなければならない。③経済階層を等しくとる必要がある。このため逆に，高級アパート居住者と低収入者用アパート居住者とを比較して経済的階層による影響を調べる。④その他，親の職業，学歴ならびに子供の知能をもできるだけ等しくして，居住条件以外の因子の混入を可及的に少なくする必要がある。以上の理由のため，われわれは，金岡地区の公営アパート居住者及び非居住者を対象として選ぶことにした。

A群：府営アパート居住者（500戸）之は月収32,000円以下が入居資格である。

B群：対照群として，A群と経済状態のできるだけ等しい一般家屋居住者を選ぶ。

C群：経済階層よりの影響を吟味するため，同地区の住宅公団アパート居住者を選んだ。これは月収30,000円以上が入居資格とされており，家賃もA群と比較して，月額2倍となっているため，A群よりも経済階層上位にあるものと考えられ，それと比較する事によって，経済的因子を考慮することができる。

対象児童は何れも，同地区H小学校3年，4年，5年全児童より，ABC各群に属するもの，40名ずつを選ぶ。母親の学歴で三群の差のないよう，又子どものIQにも差のないように配慮する（第1及び第2表）。欠損，複合家庭は除く。

第1表　母親の学歴

卒業校 ＼ グループ	専門学校以上	高等女学校	小学校
A　群	3	25	6
B　群	3	25	6
C　群	5	25	3

第2表　対象児童の知能指数

IQ ＼ グループ	70～89	90～119	120～
A　群	3	28	9
B　群	3	27	10
C　群	3	30	7

II　調　査　方　法

(1)　児童の学校成績：小学校児童指導要録"学習の記録"による。各児童の最近学年の得点を基礎学科，芸能学科，体育の三つに分けて x^2 検定した。

(2)　児童相互間による性格評価：i）ソシオメトリー[2]により，3年，4年，5年児童全員に，自由遊びの場，勉学の場における選択，拒否を5名ずつあげさせた。整理に当っては上位3名について，われわれの対象児童の被選択，被拒否数を調べた。又相互選択によるソシオグラムを求め，グループの大きさ，その中での位置について調査した。ii）ゲス・フ・テスト[2]を3，4，5学年児童に行い，おちつき，人気，男女協調，寛容，責任，協力，率先，度量，親切，礼儀，規律の11項目に関して，被指名数を挙げ，その多少について検定した。

(3)　母親の子どもに関する態度測定：上にのべた子どもの特性と関連して母親が子どもに対してもつ態度を，ラドケの質問項目より中西[3]が四因子に分析して得た40項目（別表）を使って調査した。調査にあたっては，各家庭を戸別訪問し，面接質問し親の態度を4段階（非常によく・幾分か・ほとんどない・全くない）にチェックした。

III　調査時期及び場所

対子ども：昭和34年7月上旬。H小学校教室。

対母親：昭和34年10月中旬より11月中旬まで。各家庭。

結果及び考察

I　児童の学業成績

A・B・C三群の児童の学業成績を上（学習指導要録5・4），中（3），下（1・2）にわけて，頻数をあげると第3表の通りである。A群とB群の間には，基礎学科（算数・国語・社会・理科），芸能（音楽・図工）および体育に差はみられなかったが，A群とC群の間には基礎学科で差異がみられB群とC群の間には，体育以外の科目で有意な差が得られ，C群が最も優れた成績を示した。即ちアパート居住という外的条件だけでは，学校成績の上に差異は見られず，経済的条件による児童の成績に差異があるといえる。

第3表　学業成績

		A群	B群	C群	A：B	A：C	B：C
基礎学科	上	15	12	28	$X^2=3.56$	$X^2=10.56$	$X^2=12.64$
	中	22	19	8	$P<.20$	$P<.01$	$P<.01$
	下	3	9	4			
芸能学科	上	19	16	28	$X^2=0.76$	$X^2=3.92$	$X^2=7.68$
	中	15	19	8	$P<.70$	$P<.20$	$P<.03$
	下	6	5	4			
体育	上	16	11	16	$X^2=1.72$	$X^2=1.6$	$X^2=0.76$
	中	13	18	16	$P<.50$	$P<.50$	$P<.70$
	下	11	11	8			

II　児動の行動特性

ソシオメトリーによって，遊びの場，勉学の場で，選択，或は拒否されたものは第4表にあるように，学業成績の場合同様，アパート居住条件と共に経済状況のすぐれたものが，優位を占めるといえる。即ちA群とB群とを比較すれば，A群はB群より遊びの場で拒否されるもの少く，勉強の場で選択されるものが多い。またC群では，いずれの場面においても，多く選択されている。即ちアパート群の方が好ましい傾向を示し，更に経済的上位の群が良傾向を示した。しかし，ここで児童間の友人関係が住宅地域と何らかの関係があるのではないかと考えられるので，更

第4表　児童相互間の選択・拒否

		A群	B群	C群	A：B	A：C	B：C
遊びの場	選択	11	12	19	$X^2=0.06$	$X^2=3.41$	$X^2=2.58$
					$P<.90$	$P<.10$	$P<.20$
	拒否	11	20	11	$X^2=4.94$	$X^2=0$	$X^2=4.94$
					$P<.05$	$P=1.00$	$P<.05$
勉学の場	選択	12	5	17	$X^2=3.66$	$X^2=1.35$	$X^2=8.87$
					$P<.10$	$P<.30$	$P<.01$
	拒否	14	13	12	$X^2=0.559$	$X^2=0.51$	$X^2=0.33$
					$P<.50$	$P<.50$	$P<.70$

に，相互選択のソシオグラムを描いて居住地区別に友人グループがつくられているか否かをしらべたがアパート群のみのグループ参加者は13名，非アパート群では14名で両群に差異はみられない。更にグループの人数の点では4人以下のグループに参加している者，5人以上のグループに参加している者も，三群の間で差がなかった（第5表）。従ってアパート居住児童が地域的に友人に恵まれていることにはならない。次にソシオグラムにおける各児童の占める位置に関して，Centrality score[4] を求めたがそれぞれ (A) 4.55, (B) 4.77, (C) 5.76 で，三群の間に差異は見られなかった。

第5表　友人グループ成員数

	A群	B群	C群
4人以下のグループ	10	8	7
5人以上のグループ	8	9	11

次に行動特性について，ゲス・フ・テストの結果をみると，A群とB群の間では，おちつき，度量の項目でA群に被指名者が多く（第6表）C群との間では人気，礼儀の項目で差が見られた。又B群とC群とでは，おちつき，率先，度量，礼儀の項目に差異が見られた。これらの諸特性において児童相互間にみられた傾向は，住居条件，経済条件が共に関連しており，アパートの子供の行動に影響するアパート生活及び経済状況の重要性が明かとなった。しかし叙上の住居条件ならびに経済的条件は何れも物的あるいは社会的条件である。住居状況，経済状況は子どもをめぐる環境ではあるが，アパートであること自体が——たとえば，部屋の密閉性，孤立性などが，子どもにとっての行動規定的条件であるとはいえ，それのみによって人格自体が左右されるとは考え難いであろう。子どもに対して直接の人間的環境に親ことに母親がある。むしろ母親の態度が，子どもの行動特性に影響し，その態度のあり方が，アパート居住条件によって，左右されていると考える事が可能である。

第6表　子どもの行動特性

	A群		B群		C群				
	高	低	高	低	高	低	A：B	A：C	B：C
おちつき	19	8	8	11	22	6	P<.10		P<.02
人　気	10	11	11	8	18	6		P<.10	
男女協調	16	15	10	7	17	18			
寛　容	10	16	12	11	14	13			
責　任	11	11	11	15	20	11			
協　力	27	13	17	9	22	6			
率　先	11	12	10	14	19	10			P<.10
度　量	14	6	6	12	18	8	P<.05		P<.05
親　切	12	10	11	10	16	9			
礼　儀	9	11	7	14	19	6		P<.05	P<.01
規　律	12	6	16	10	19	5			

この意味において，われわれは，親の子どもに対する態度がアパート居住者と非居住者とによって如何に相違するかを次に明かにせんとした。

III　親の子どもに対する態度測定の結果

ラドケー中西の質問表(別表)によって親の子どもに対する態度を面接調査したがその結果次の項目

に有意差があった（第7表）。

1）権威的—民主的態度について：A群とB群とでは3項目に有意差あり，2問についてはA群の方が民主的である。"（I 3）子どもは母親のいうことを聞かないで思い通りのことをします"，ではB群にその数が多い。またBとCとの間には5項目に差があり，何れもC群の方が民主的な子供本位の態度という事が出来る。A群とC群では2項目に差があり，C群の方が民主的態度が多い。

2）同胞間不調和—調和について：AとBの間に2項目の差あり，一つはAの方が調和的であり，他の一つはBの方が調和的である。BとCの間にも，一つはBが調和，他はCが調和的であるのが見られた。AとCの間には有意差のある項目はない。

3）許容—非許容的態度について：AとBの間に1項目に差ありAの方が許容的である。BとCの間には4項目の差あり何れもCの方が許容的である。AとCの間には一項目の差ありCの方が許容的である。

4）大人ぽさ—子供ぽさの奨励では：AとBの間に有意差のあるものない。BとCの間には2項目の差あり，Cの方が子供ぽさを奨励する。AとCの間には3項目に有意差あり，Cの方が子供ぽさの奨励が強い。

第7表　親の子どもに対する態度

		A群		B群		C群		A：B	A：C	B：C
		+	−	+	−	+	−			
I 権威的—民主的	1	15	25	12	28	2	38		P<.01	P<.01
	2	30	10	24	16	30	10			
	3	17	23	25	15	20	20	P<.10		
	4	17	23	17	23	12	28			
	5	6	34	10	30	3	37			P<.10
	A	21	19	16	24	30	10		P<.05	P<.01
	B	27	13	28	12	25	15			
	C	29	11	20	20	33	7	P<.05		P<.01
	D	29	11	21	19	31	9	P<.10		P<.02
	E	28	12	28	12	21	19			
II 同胞間不調和—調和	1	14	23	9	30	17	17			P<.02
	2	10	28	8	30	10	23			
	3	32	4	32	7	27	5			
	4	31	9	32	8	35	5			
	5	8	32	5	35	6	34			
	A	12	10	12	9	7	7			
	B	17	23	25	15	20	20	P<.10		
	C	19	21	19	21	18	22			
	D	26	14	16	24	29	11	P<.05		P<.01
	E	12	28	12	28	10	30			
III 許容的—非許容的	A	21	19	16	24	30	10		P<.05	P<.01
	B	31	9	23	7	25	15			
	C	20	20	19	21	16	24			
	D	30	10	28	12	36	4			P<.10
	E	28	12	28	12	21	19			
	1	2	38	7	33	2	38	P<.10		P<.10
	2	8	32	5	35	6	34			
	3	16	24	15	25	14	26			
	4	8	32	13	27	8	32			
	5	18	22	20	20	12	28			P<.10
IV 大人らしさ—子供らしさの奨励	1	15	25	12	28	2	38		P<.01	P<.01
	2	8	32	7	33	4	36			
	3	38	2	34	6	30	10		P<.05	
	4	10	30	5	35	10	30			
	5	30	10	24	16	30	10			
	A	29	11	23	17	25	15			
	B	12	28	12	28	10	30			
	C	28	12	27	13	28	12			
	D	31	9	31	9	24	16		P<.10	P<.10
	E	35	5	31	9	31	9			

以上により，アパート居住者と非居住者の間には親の子に対する態度において，いくつかの差があり，概括すれば，アパート居住者の方が非居住者よりも，子どもに対し民主的許容的態度をとることが強いということが出来る。また同じく，アパート居住者の中でも高収入者向アパート居住者の方が，民主的，許容的で，大人らしい態度より子供らしさを奨励する傾向が強い事が示された。アパート居住者の非居住者に対して示すこのような，子どもに対する態度の差異が，上述の子供の社会性における差異に影響を及ぼす直接の因子であると考えてもよいが，しからば，アパート居住によって親がこのような態度をとるに到る理由は何であるかが次の問題となる。この事は経済階層差についてもいい得る事であり，アパート居住というだけの条件は共通しているが，高収入者向アパート居住者は低収入者向のそれよりも，子どもに対しより民主的許容的であるとすれば，たんなるアパート居住以外の原因を考えてくる必要がある。したがってこのような母親の態度をとらしめるのは，アパート生活といった地理的，物理的あるいは社会的条件によるものか，または，本研究では経済的条件のコントロールが不充分であったが，それら経済的な構造によるものか，更に吟味を要するところである。

要　　約

1)　目的，アパート居住者と非居住者の児童の心理的特性の差異を知り，その根拠を明かにしようとする。

2)　方法 ① アパート（A群），一般家庭（B群），高収入者向アパート（C群）の児童4～6学年児について学業，社会性を調べる ② その背景としての親子関係をしらべるため，ラドケー中西の親子関係調査を行う。

3)　結果 ① 学業成績ではA，B群間に差はなく，A，C群では基礎学科にB，C群間には基礎学科芸能学科で差が見られた。② 子どもの社会性については，A群は"おちつき"・"度量" の点でB群より優れておりC群は "おちつき" "人気" "率先" "度量" "礼儀" の項目で好ましい結果を示した。③ 親子関係においては，A群はB群より民主的であり，C群は5項目でA，B群より民主的である。A群はB群に比べ許容的で，C群は更に許容的である。又，C群はA・B両群よりも子供ぽさの奨励が強い。同胞不調和—調和については，3群共に項目によって調和的であるといえる。

4)　アパート居住児童は非居住児童に比し，ことに社会性においてすぐれ，高収入者アパート児童程それが著しい。親子関係でもアパート居住者の方が，子供に民主的で許容的であり人格形成上好ましい条件にあり，これも高級アパートで最も著しい。故にアパート生活そのものが子供の人格に直接影響するものか，母の態度に影響して更にそれが，子どもの人格形成を促進するものかは明かでないが，アパート生活が子供の人格にとって好ましい条件であるという事はできよう。

別表　ラドケー中西質問表

1.	私はこの子供と遊びます。	(Ⅰ A) (Ⅲ A)
2.	この子供はあつかいやすい方です。	(Ⅳ 4)
3.	この子供は私に質問します。	(Ⅱ 4)
4.	私はこの子供に厳格です。	(Ⅲ 3)
5.	私は子供を監視すべきで，言うことをきくべきでないと思っています。	(Ⅲ 5)
6.	この子供が私の言うことをきかないとき，私は子供に負けます。	(Ⅲ C)
7.	私はこの子供が遊び友達を家へつれてくることを好みます。	(Ⅰ D)
8.	この子供は家庭の相談ごとに加わります。（発言権をもっています）	(Ⅲ D)
9.	この子供は兄弟姉妹の間に人気があります。	(Ⅱ A)
10.	この子供は兄弟姉妹とけんかします。	(Ⅱ 3)
11.	家庭内の他の子供はこの子供を嫉いています。	(Ⅱ 2)
12.	この子供は家庭内の他の子供を嫉いています。	(Ⅱ 1)
13.	この子供は父親を好いているようにみえます。	(Ⅱ D)
14.	私はこの子供を叱るとき（押入，土蔵，部屋）などへ閉じこめます。	(Ⅲ 1)
15.	私は他の子供たちの前でこの子供を叱って恥をかかせます。	(Ⅲ 4)
16.	この子供は私の言うことをききます。	(Ⅰ B)
17.	この子供は母親を恐れています。	(Ⅱ 5) (Ⅲ 2)
18.	この子供は私の言うことなどきかないで思いどおりのことをします。	(Ⅰ 3) (Ⅱ B)
19.	この子供が言うことをきかないとき，神仏の罰があたるとか，巡査につれていってもらうなどいっておどします。	(Ⅰ 5)
20.	私はこの子供について全くのん気です。	(Ⅱ C)
21.	この子供には常に身ぎれいにするよういっています。	(Ⅰ 2) (Ⅳ 5)
22.	私はこの子供が無条件に言うことをきくよう望みます。	(Ⅰ 4)
23.	この子供は自分の考えたことや感じたことを私にうちあけます。	(Ⅲ B)
24.	私はこの子供を叱る前にその理由をいいます。	(Ⅰ E) (Ⅲ E)
25.	私はこの子供に愛情を示します。	(Ⅳ A)
26.	私はこの子供の好きなようにさせます。	(Ⅳ E)
27.	私はこの子供を赤ん坊あつかいします。	(Ⅱ E) (Ⅳ B)
28.	私は反抗的な子供よりじゅうじゅんな子供が好きです。	(Ⅳ 3)
29.	私はおてんばかゴンタよりも上品なおませさんの方が好きです。	(Ⅰ 1) (Ⅳ 1)
30.	私はおしゃべりさんよりも，静かな子供の方が好きです。	(Ⅳ 2)
31.	私は小心な用心深い子供よりも，大胆な図太い子供の方が好きです。	(Ⅳ C)
32.	私はこの子供のおこないに満足しています。	(Ⅳ D)
33.	私は大人に好かれる子供より子供たちに人気のある子供の方が好きです。	(Ⅰ C)

文　　献

(1) 中西　昇他：本紀要 **1**，4，1 (1953)

(2) 田中熊次郎：児童集団心理学，明治図書 (1958)

(3) 中西　昇：教育心理学研究，**6**，153 (1959)

(4) 南　　博：体系社会心理学，光文社 (1957)

Summary

1. Purpose : By comparing the psychological traits of children who live in apartment houses with those of children in detached houses, it is intended to clarify the factors that characterize them.

2. Method : Subjects consisted of three groups, 40 families (A group) in apartment houses of an equal economic level as that of B group, 40 families (B

group) in detached houses, and 40 families (C group) in apartment houses of a higher economic level. The children were from 10 to 12 years old, and attended the preliminary school in the same region. Their school records were surveyed, and the social adjustment examined through sociometry and Guess-Who-Test. In order to disclose the parent's attitude to the child, Radke-Nakanishi Parent-child Relation Inquiries were made to the subjects' mothers.

3. Results : a) On the school records, C group showed the higher scores than those of A and B groups except on gymnastics. b) In terms of composure and generousness, a significant difference was found between A and B. C group showed the characteristics of more composure and generousness than A and B, and moreover, of favorite, initiative and politeness. c) As for the relation of parent-child, 1) A group showed a more democratic attitude than B on the three items. C group was the most democratic. 2) A group was more permissive than B group on one item. C group was more permissive than A and B groups. 3) In the term of "manlike-childlike", a significant difference was observed between A and C, and also B and C.

4. The children in apartment houses showed a better tendency in social adjustment in comparison with ones in the detached houses. Among the children in the apartment houses, the ones in the higher level of economy were more adjusted. The parents of apartment dwellers showed a more democratic and permissive attitude, much more so with the group of higher economic level. Therefore, the study indicated that living in the apartment houses has given some influences on children's personality, though it was not possible to show whether the type of houses they live in, or the attitude of their parents has given direct influences on children's personality.